

武蔵野市レジ袋削減会議
第1回議事録

実施日時	平成21年1月29日(木) 午後2時から4時
会場	市役所西棟411会議室
参加者 (敬称略)	邑上 守正市長(あいさつ、委嘱) 大江 宏、野田 浩二、川添 勇二、保母 錠治、 松井 玉、濱中 洋子、富岡 光、加藤 慎次郎、 白石 ケイ子、南 みずほ、三輪 博行
欠席者	なし
事務局	ごみ総合対策課減量資源化係 古林環境政策専門委員、花俣ごみ減量協議会会長 パシフィックコンサルタンツ(株)
配布資料	資料1…第1回資料 資料2…座席表 資料3…委員名簿 資料4…武蔵野市ごみに関するアンケート調査概要 資料5…平成20年度事業概要 * 事前配布資料 ・武蔵野市レジ袋削減会議設置要綱 ・ごみ減量協議会提言書 ・レジ袋使用事業者懇談会報告書 ・ごみ処理基本計画(概要版含む) ・環境省「レジ袋削減に係る全国の地方自治体での取組状況について」
傍聴者	2名
次 第	1. 開会 2. 委嘱式 3. 市長あいさつ 4. 委員自己紹介 5. レジ袋削減会議設置の経緯説明(事務局) 議 事 1. 正副会長の選出 2. 正副会長のあいさつ 3. 会議の運営について 4. 情報提供(事務局) 武蔵野市のレジ袋削減の取り組み レジ袋削減対策の動向 レジ袋削減手法 5. レジ袋削減について 6. 今後の日程

○市長挨拶

第一回レジ袋削減会議、武蔵野市はごみの問題をこの間ずっと懸命に取り組んで参りました。もちろん市民の皆さんからあるいは事業者の皆さんからも共に力をいただいて、取り組みを決めていくことができました。現在、ごみの量をいかに減らせるかについてごみ減量協議会のなかでもさまざまな議論をいただいております、かたや700グラムキャンペーンを市と市民のみなさんと一緒に取り組んで、はや2年余り経っております。当初、キャンペーンを始める前は756グラムという量でございましたが、昨年の段階で722グラムまで減らすことができっております。これも皆様方の協力と市民の皆さんがごみ減量という意識をもって取り組んでいただいているおかげだと思っております。ただ数値的にはほかの市に比べればまだまだ多い状況が続いておりますので、やはり、ごみの減量というのはこれからもテーマとして考えていかなければいけないと思っております。今後は今日のこれからの課題であります、レジ袋という点に視点をあてまして、これはひとえに市民がマイバッグを持っていくというだけではなくて、事業者の皆様の積極的なご協力なくして、取り組みは進まないと思っております。すぐに全事業者一斉スタートではなくて、さまざまな課題を出し合いながら、趣向を繰り返しながら、武蔵野市らしいレジ袋の削減方法をぜひ確立していきたいと思っております。当然提言の中では、レジ袋の有料化ということも大きく提案いただいておりますので、それも当然のことながら視野に入れます。しかし、さまざまな趣向をしながら、課題を出し合いながら、この武蔵野で継続できるようなやり方を広げていき、ゆくゆくは全体のごみの量が減っていけばいいと考えます。ごみの量の削減というのは、環境問題に絡むことですが、同時にこれから大きな課題となっております。私どものクリーンセンター、焼却場の建て替えにも、大きく関わる話でございます。なるべくごみの量を総量として減らしていく、燃やす量を減らしていくという中で、見合った形でのクリーンセンターの建て替えがなされればいいのかと思います。

いずれにしても、武蔵野市にとって環境問題の大きな柱となるごみの減量ということをごみ減量協議会の皆様のお力をいただきながら、共に取り組みを進めていきたいと思っております。委員の皆様方におかれましては、今後一年間ということで委嘱をさせていただきましたが、この期間の間にさまざまなお話をいただき、この事業の取り組みが進むことを期待しております。どうぞご協力よろしくお願いいたします。

○委員自己紹介

- A：地元の亜細亜大学の経営学部で環境マーケティングなどを教えている。
- B：隣の西東京市の武蔵野大学で環境経済学を教えている。
- C：スーパー業界におきまして35年を迎えているが、店の経験は5年間ほど、あとの30年間はほとんど総務関係の仕事をしている。
- D：武蔵野市の緑町、むさしの店は3番目くらいに出店をした店舗で、長い間皆様のお世話になっている。ちょうど今改装して、また体制を整えようというところ。武蔵野市には我々の出すごみについて、いろいろお叱りをうけたり指導をうけたり、レベルの高いところで、今処理をできている。レジ袋につきましては、難しいところはあるが皆さんと一緒にできるようなことがあれば考えたい。
- E：私どもはレジ袋の消費は少ないが、レジ袋削減というのはずっとテーマとして考えている。2000年にISO14001を取得、会社に交渉して、法政大学の人間環境学というところで、4年間学んだ。そのあと2年間ほど、法政大学の研究室にて学んだ。何か力になれることがあれば、気楽に声をかけていただければと思う。
- F：セブンイレブン武蔵野関前4丁目店で商売している。先ほど市長もおっしゃったように2年あまりごみ減量に関らせていただいて勉強している。自分が配ったこのレジ袋が、どこに行ってしまうのかなという責任も感じながらまた一緒に考えさせてもらいたい。
- G：五日市街道から武蔵野警察の間の中央通り西祥会で会長をしている。街路灯が61本あり、マイ

バッグのフラッグを掲示している。

H：武蔵野市から委託を受け、市内で排出される容器包装プラ、ペットボトルの分別、収集ならびに中間処理を行っている。処理業者という立場から何かお役に立てればと思う。

I：クリーンむさしのを推進する会にて、ごみ減量を目的とした活動をしている。会の中でマイバッグ、レジ袋削減という活動を続けており、今年で10年目。こういう会に出られたことを大変うれしく思う。

J：環境美化推進委員で、こちらのほうでも勉強したいと思っている。

K：平成16年10月に家庭ごみの有料化を実施させていただいた。その年から1年間、17年10月にはごみのがくんと減った。しかし、18年の同時期にはがくんとまた増えた。そういうことで市は先ほど市長が申しました通り、チャレンジ700グラム宣言を行った。これは18年の11月だが、その後皆様の努力もありごみは減少傾向に至っている。さらにごみを減らしたいと思うので、このレジ袋削減会議が有効につながるように私も努力したい。

～オブザーバーのご紹介～

ごみ減量協議会会長：吉祥寺本町通り商店街振興組合という伊勢丹の前の大きい通りですが、そちらの商店街の理事長をしている。商売は眼鏡屋をしている。

環境政策専門委員：市と市民の間をつなげたりいろんなことを一緒に考えたりしていきたいと思う。

○レジ袋削減会議設置の経緯説明（事務局）

資料説明

- ・レジ袋削減の意義（目的）（パワーポイントによる説明）
- ・提言書の説明
- ・フロー(資料1 4 ページ)の説明
- ・スケジュール(資料1 5 ページ)
- ・平成20年度の議題（資料1 6 ページ）

○正副会長の選出

E 委員から会長に A 委員が推薦され、了承された。

副会長は、立候補で I 委員が立たれ、これも了承された。

○正副会長のあいさつ

会 長：市長からも先ほどお話があり、今事務局からもこの会の設置、計画、意義目的を含めて説明があった。市長のお話、また事務局からもあったように有料化は、ごみ減量協議会の中で方向づけられているが、それを尊重しながらさらに武蔵野市らしいいろいろなものを検討していただきたいということかと思う。ごみ減量協議会で1年検討したのを受け、また資料にあるように、事業者懇談会等いろいろな努力の積み重ねがある。この会議はその積み重ねの上で最後の方向づけをし、スタートを切れるようなところへもう一段精緻化して渡すというのが目的だと思う。ごみの全体の量から言うと、レジ袋はそれほど大きな量は占めないと皆様知っていると思う。ちょっとずつという話しも出たが、たかがレジ袋というところもあるかもしれない。でもそのちょっとずつが逆に言うと、節約すると30グラムとか50グラムとかすぐ行ってしまう。その裏返しなので、ごみをどうするかという時には、ひとりひとりの行動というところに行かざるを得ない。そうすると、たかがレジ袋でもひとつのきっかけ、あるいは素材とかツールとか、それに焦点をあてながら、その先のCO₂削減やライフスタイルの変革というところへつなげていければいい。日々買ってきたものを入れるレジ袋の削減は、一番末端で努力しようとしている。その末端の努力を川中、

川上へあげていって発信でき、またその川上のほうでの、削減努力につながれば、大きな本来のしくみのなかで循環していく可能性もある。そういう面では、「されどレジ袋」である。副会長は10年と言ったが、日々その実践に関わっている皆様方なので英知を拝借し協力し、この会に与えられた使命として、いい方向付けをできればよい。私はそのために少しでも役にたてればと思う。

副会長：約10年活動してきたがこの4年間、毎年10月環境省から「環境に優しい買物キャンペーン」の呼びかけがあったのに答え、武蔵野市や商店会連合会にお願いし、三者共催という形でポスターを各お店、掲示板等に貼らせてもらった。それからポスターだけではなかなか市民の意識も変わらないし、またお店としても「いかがですか？袋持っていますか？」と本当に言いにくいということで、カードを作らせてもらいレジに貼った。これがあることで「いかがですか？」と聞きやすくなり、多少なりともその効果がでるかなど。このような活動を4年間やってきた。全体では、4年間でポスター4000枚、ステッカーを1300枚くらい貼らせてもらい、武蔵野市全域をだいたい網羅している。なかなか精神論だけではやはり難しい。それで何らかの形でその行為をすることで市民の皆さんがいくらか得をするというようなものできないかなということで検討した。例えば、レジ袋一枚1円で既にレジ袋事態率約75%の効果をあげている店もある。効果があがるなら、この方法もいいと思っていたが、全国的にやはり、有料化により80%~90%の効果があがっているので、武蔵野でもどうかと思い提案した。でも吉祥寺という街をかかえていると、やはりよそとは違った街の形なので、そういったことばかりも言えないという中で、皆と一緒に探れたらと考えている。いい案をみんなで練っていききたいと思う。

○レジ袋削減会議運営に関する基準

公開する議事録概要は発言者の氏名を記名しないこと、会議の傍聴は先着順とし、定員は5名とすること等を規定した基準を了承

○情報提供

- ・資料-4 武蔵野市ごみに関するアンケート調査概要
- ・武蔵野市のレジ袋削減の取り組み（事務局）
- ・レジ袋削減対策の動向（事務局）
- ・レジ袋削減手法（コンサル）

（質 疑）

B委員：アンケートにある、問20で2と答えた方のその他のところで「レジ袋代が商品に上乗せというのは、どういう意味か。」レジ袋代というのは、基本的にスーパーが負担しているのか？

C委員：スーパーの「経費」として計上する。商品に上乗せではなく。消費者の方の思い込みかと。

E委員：ブランドものだと、その紙袋がそのメーカーから支給される。化粧品も。

D委員：スーパーではギフト対応でメーカーさんの袋がままある。しかし使うケースはあまり多くない。ほとんどが自社の袋、経費負担。大きく言えば、会社の経費もお客さんからみれば（商品に上乗せしているととれる）。

会長：お客様からみれば、大きく見ればレジ袋も含めた経費は商品に上乗せされているととれる。売る側に見れば、少し違う。

K委員：ノーと答えられた方で、家庭でもレジ袋を活用して必要なものだからという人がいる。武蔵野市の可燃ごみ・不燃ごみは指定の有料袋にいれて出してくださいと言い、他の資源ごみはレジ袋でもいいですよという言い方をしていますので、「必要だから」というアンケートも理

解できる。

副会長：(レジ袋を必要と思っている人の) ほとんどが「ごみ出しに必要だから」という意見。でも勘違いだ。ごみを出すためにタダで配っているわけではない。目的はあくまでも買い物をしたら荷物を入れるため。

会長：今日、残りました議事は次回に回したい。今の提供された情報を皆から質問のあるところも含めてこれから共有していきたい。議事の(5) レジ袋削減に残りの時間の大半を使いたい。中身は委員の皆から今日いただいた資料もあり、先ほどの説明の中で市内のスーパー等の取り組み状況のご紹介もあったので、委員の皆よりの発言が一周できれば一番いい。どなたからもレジ袋削減について、これまでの取り組みとか現状あるいは状況、中間処理の川下のほうの処理のほうでもいろいろあると思う。

E 委員：レジ袋というのは何をもってレジ袋というのか？ 皆さんの考えを統一しないといけないと思う。スーパーのビニールの袋、あるいはレジ袋だと思うが百貨店では紙袋がある。どこまでをレジ袋というか。みなさんの意見を聞きたい。

会長：定義はあるか？ 環境省の全国調査等は、レジ袋を定義しているか？

事務局：環境省の調査の時に、特に定義はない。

事務局：いつも石油換算しているので、紙のものは含まないか。定義はみたことない。

会長：この会議で定義を決めないと。何かアイデアありますか？

E 委員：調査があるので何か定義があるのかと。食品はビニールが多い。スーパーでも紙袋を使っているところがある。

C 委員：弊社グループでの捉え方は、ポリエチレン製のレジ袋。紙袋についてはここでいうレジ袋からははずれている。ほかのエリアのところでもレジ袋有償化されて、無料配布をしてないから、レジ袋の代わりにお客さんに言われたときに紙袋を出している。もしくはダンボールを出している。一連の業界の捉え方はポリエチレンの袋だと。

会長：ここでは紙袋ははずして、プラスチックのみ、ポリエチレン製のレジ袋対象。だから石油換算になる。次回までに資料、情報をいただきたい。

副会長：定義ではないが、運動をしてきた側としては、ただではもらわないという風には考えていけないか。ただあまり拵げてしまうとややこしくなるので、とりあえずプラのレジ袋という感じでやっている。西友だと2階3階と上がって行くと同じように2円引き。本来はやはり、ごみ削減ということからすると、何でももらえばいいということではなくて考えるべき。今回は石油製品であるプラスチックでと思う。

会長：もう少し明確にしていくという方向の中で、とりあえずプラスチックレジ袋で。

H 委員：レジ袋を必要だという意見で、資源ごみの袋として出していることがある。私どもの回収では、ビン、カン、プラスチック、ペットボトル。全部のレジ袋がゴミ袋に代わっているのでは決してない。感覚的だが、プラスチック製の容器包装として出される袋のなかにレジ袋だけ単体も入っている。これが数的にどのくらいかはデータとして持ち合わせていないが、プラスチック製の容器包装の袋を破袋したとき、きれいなレジ袋がそのまま入っていることもある。全部がごみ出しには必要ではない、もらいすぎではないか。

会長：今の状況を考えて減らしやすい。

G 委員：資料を見るとスーパー、デパート以外のコンビニはどのような働きかけをしているか？ 99 ショップでは野菜もあるので、ほとんどの方がマイバッグを持ってきていない。そういうところの働きかけはどうなっているのか聞きたい。

D 委員：99 ショップはチェーンストア協会に加盟している。チェーンストア協会の大きな方針があり、レジ袋削減について理解はしているのでは。有料化している店舗もあるのではないか。

会長：今朝の日経新聞でコンビニの出店条件としてレジ袋有料化を設けているという記事があった。

F 委員：私どもはフランチャイズ、全国展開である。市が自治体として指導しても、本部でOK が出

ないと市に従うことができない。弊社だけでも 12,000 店舗がある。そこでまた検討していくという形になると思う。武蔵野市だけでも 26 店舗、他のコンビニも相当数あり、結構難しい問題だ。一昨年、B 委員の前任の先生と一緒に学生の環境同好会の考えたエコバッグを検討してみた。

B 委員：大学正門前コンビニと大学に入ったコンビニの協力をあおぎ、リユースバッグを 1,500 枚作り、レジ袋削減のためのリユースバッグ配布をした。その回収を 1 人の学生が中心となってサークルで行った。ただ実際のところ、今はうまく機能していない。1,500 枚用意したリユースバッグが今 50~60 枚に減っている。なぜかというのは、いろいろ意見があり、制度的に難しい面があると思う。学生は今でもがんばっている。

会長：エコバッグのリユース？

B 委員：学生が 2 つのコンビニで買うときに、レジで袋はもらわないでリユースバッグを使う。

F 委員：2 つのコンビニで共同でお金を出資して 1,500 枚リユースバッグを作って、平成 19 年の 10 月から 3 ヶ月間試作してみたが、3 ヶ月間の間に袋が半分に減ってしまった。さらに減り続けて、今はもう何十枚しかない。

会長：袋が返ってこないということか？

F 委員：そうだ。緑色の大・小を作りお弁当向きとちょっとした学生の買い物向けに二つ作った。リユースと書いてキャラクターのふくろうの絵も描いて。主催の学生も言っていたが、可愛すぎるとみんなもらっちゃって、戻ってこないし、ダサすぎると使ってもらえない。汚れると使いたくない。本当にサークルの学生さんたちが苦勞し、洗濯したり、戻したりしたがなかなか浸透しづらかった。

B 委員：今回の有料化の実験も同じことが言えるのではないかな？ 学生のがんばりを見ているので言いにくいけど、使う側の善心性、返してくれるだろうという人間像を結局は原点にしている。だが、現実、捨てちゃうということになれば、当然リユースバッグが減っていく。その辺りをどう考えるか？

会長：この試みはヒントになる？ コンビニが取り組んだということがすごく大事なところだ。

F 委員：大学の中だけだったら、みんなが学校に関わる人だからよいが、私どもの場合は一般の人と学生さん、職員の見分けがつかなかった。だから、エコバッグの対象かどうか見分けが非常に難しく、自分からエコバッグと言ってくれればありがたいが。どうして前の人にはエコバッグを使わせて私には使わせてくれないのか、というのもある。それで一年足らずで断念してしまった。だから、学校だけとか限られたところで使うにはとてもいいアイデアと思う。

会長：B 委員、制度的な評価もあれば、出していただけると。改善法もあると思う。他に。

E 委員：最終的には市民の意識を高めることが問題であるが、まず、我々小売業では自分たちからやらなくては。少なくとも従業員にはマイバッグを持ってもらう。自分たちが実践できないことをひとに押し付けるのはどうか。小売業者が自分のスタッフにレジ袋を使わせないということで、レジ袋を持たないということはどういうことかわかってもらう。第一段階はそれが必要ではないか？

B 委員：レジ袋を有料化したときのお金の使い道は？ 市民アンケート結果を見るとそういう情報を提供していくことは大切だ。5 円なら 5 円、市としてやるのであれば。

D 委員：スーパーで有料化しているところは、経費で差し引いて差益が出た分は、市と相談しながらしるべきところに寄付等をしているところが多い。

事務局：環境対策に使われている、差益分は、店舗によってさまざまだが、環境教育に使ったり、NPO に寄付したりさまざまで、環境報告書などに載っている。

会長：店舗ごとなのか、今の段階では。それは市民には伝わっていない。

D 委員：当初スタートした先行スーパーは、見切り発車で、5 円でリユースを意識しレジ袋のグラムを厚く何回も使える仕様にしていた。リユースは、食品を入れるのに何回も使うのが嫌なの

かもしれない。例えば、これからは弊社では、新たに袋を作らないで今までの袋を3円で売るという選択もでてくる。逆に差益は出ないようにするとか、方法は会社ごとに動きが違うかもしれない。

会長：今、差益とおっしゃいましたが、原価というのは公表可能なのか？

D委員：特に、公表していない。

会長：具体的にいくらが適切なのか？

事務局：環境報告書を出している企業は、レジ袋の差益の使途を公表しているところもある。それがアピールになる。

副会長：本日の資料にはないが、一昨年行った調査でレジ袋辞退率が70数パーセントの店が市内にあった。開店一ヶ月前ぐらいから市民の皆様へ環境への協力をとお知らせしていた。ここは一枚一円だが、袋自体が生分解性の袋なので値段が少し高い。なおかつ一円ということで、今レジ袋はいくら位するのかと思う。2円だったらお互いに一円ずつ負担してもいいのではないか？余分になったものをどうするのかなど。そのあたりのことも考えなければいけないと思う。一円で効果があるのかと言われると、それでは効果ないでしょうと言われる。でも、この例のように十分効果を出しているところもある。来られる方も本当に当たり前のように袋を持ってくる。一つの参考にしていただいてもいいのかなと思う。

会長：1円が原価には思えない。ありがとうございます。本来なら、ここから議論だが、次回に回すこととする。前半にウェイトのある会議日程である。2月、3月は様子を見て会議の時間を30分くらい延長することもあるかと思うがよろしく願いしたい。

○今後の日程

今後の会議日程	2月23日(月)	午後2時から
	3月19日(木)	午後2時から

閉会

以上

武蔵野市レジ袋削減会議

第2回議事録

実施日時	平成21年2月23日(月) 2時から4時
会場	クリーンセンター見学者ホール
参加者 (敬称略)	大江 宏、野田 浩二、川添 勇二、松井 玉、濱中 洋子、 加藤 慎次郎、白石 ケイ子、三輪 博行
欠席者	保母 錠治、富岡 光、南 みずほ
事務局	ごみ総合対策課減量資源係 古林環境政策専門委員 パシフィックコンサルタンツ(株)
配布資料	資料1…座席表 資料2…表① レジ袋削減手法の整理 表② 武蔵野市内スーパーのレジ袋削減に関する 取り組み状況(店舗ごと) 資料3…実験計画案 資料4…事業者一覧(市との連携) 資料5…事業者配置地図 * 事前配布資料 ・第2回資料 ・平成20年度レジ削減に向けた事業の実施状況調査結果
傍聴者	0名
次 第	1.開会 2.会長あいさつ 3.資料確認(事務局) 4.前回の保留事項(事務局) ・レジ袋について ・収益分の使途 議 事 1.委員自己紹介 2.武蔵野市のレジ袋削減のあり方について 3.実験計画

○開会

○確認事項（事務局）

- ・第1回会議録の確認
- ・レジ袋の定義
- ・収益金の使途

議 事

■委員自己紹介及び武蔵野市のレジ袋削減のあり方について

副会長：レジ袋に取り組んで10年、キャンペーンをしっかりと実施したのがここ4年間。その中で3年目にはいり、有料化が全国的に動き始めるなか、武蔵野はどうかアンケート調査を行った。青空市や商店の前など5箇所を実施し、約400人から回答あり、止むを得ないという意見も含め81%の方が有料化に賛成であった。「有料化になったら明日からでも袋持っていく、それまでは持っていない」と若い男性が言っていた。昨年と同様にキャンペーンを実施、今までになく商店の反応がよく、やはり時代の波をしっかりと感じている。4年間の私たちの実績も含め、このような反応をいただけたと思う。

A委員：武蔵野市の環境に優しいところは、ほぼ平坦、10mの高低差がないため、自転車や徒歩で移動できる点だ。利便性が高いということから、自家用車の保有台数が全国的に見ても少なく、車を使わない環境にやさしい街と言える。また大規模な工場が少なく、CO₂などを排出する事業所が少ない。もう1つは、人口が過密であり冷暖房にエネルギーを使わなくてすむ。環境にやさしくない点は、昼間人口が多いこと、この要因は学生が多いことだ。特に武蔵野で3つの大学、周辺は5大学があり、そこに何万人もの学生がいる。それが、特徴でありターゲットだと感じる。また、吉祥寺を中心とし乗降客が通常30万から40万おり、13万の人口比率からすると、かなり吉祥寺地区に人口が集中している。それから中小規模の4000から7000と言われている事業所があり、それから大型事業者は、デパート含めると39事業所がある。

B委員：39の大型店舗という中で、どこか今有料化のところがあるのか。

A委員：39の中に有料化しているところはない。2円バックしているところはあるが。

副会長：（大型ではないが）最近、出店した店でレジ袋1枚10円のところがある。

会 長：学生が多いという点に、何か仕掛けられるか。

副会長：吉祥寺を中心にポスターやカードを貼ってもらうために回った際に非常に反応が良かった。

2円値引きの店で、店舗によってマイバック持参率は60%達成しているが、吉祥寺店は50%きっている。その理由は、武蔵野の市民ではない買い物客が多いのが原因である。

C委員：前回、レジ袋を資源ごみの排出容器として使う現状をお話した。今後、このレジ袋を有料化し

市民に協力を幅広くお願いした場合、資源ごみの排出に困ることは避けなければいけない。
ビン・缶・ペットボトルは、袋で収集する自治体は少ない印象だ。プラスチック系の容器による排出に変更する等、何か工夫をしたほうが、レジ袋を有料化したときの反対意見が減少すると思う。

D委員：私は小金井市に在住だが、家庭ごみ有料化で一部スーパーでは、市の指定ごみ袋をバラで、1枚40円（20%）で販売している。レジ袋をもらわずに指定袋を買って、ゴミ袋として使うということがある。無駄にはならない。

会長：小金井市は、資源は全て有料指定袋か。

D委員：資源は違う。燃えるごみとプラと燃えないごみが有料である。

A委員：確かにレジ袋削減と、行政側の収集体制の変更は、相まって進めないといけないと思う。現在、レジ袋が資源やおむつを出すのに使われている。提案が出れば、行政は収集方法、廃棄容器も変更していく必要があると感じている。

会長：西東京市は、かごでやっていたか。

C委員：西東京市に限らず、容器包装プラスチックは、袋が多い。それ以外のビン・缶、ペットボトルは、形の安定しているポリバケツのようなものやコンテナかごを用意する場合もある。

B委員：コンビニで有料化が難しい理由は、温める商品が主流であることにある。夏場でもお弁当は温めて渡すし、素手で持たせると火傷する場合がある。実際にレジで、お客さんに「温めたものと飲み物を別にしますか。」と言うと、「別々に入れてほしい」という人が10%程はいる。レジ袋だけでなく、お箸などもお弁当から抜いているが、カップ麺を3つ買ったら3つともお箸つけてほしいというお客もいる。消費者側の意識と事業者側の意識がある程度のところで折り合わない、レジ袋削減の取り組みは非常に難しい。これからみなさんと勉強し、どうしたら、折り合いをつけられるのか考えていきたい。

D委員：こちらでは、雑貨を扱っており、匂いが出るもの、足につける靴下、靴とか、衣料品から食品から全部ある。やはりご年配の方は、足に履くものと食品は別々に入れてという方が多いので、問いかねは必要となる。また、毎月5日のマイバッグキャンペーンで、約40%強の辞退者がいるが、12月と2月は、ギフトが多く、バレンタインの2月はマイバック持参率20%切り、クリスマスの12月も30%きった。レジ前に袋いらない方お申し付けください等、いろいろやったが。今、レジ横に武蔵野のマイバッグデーと貼っているが反応が小さい。今までやった中では「声かけ」が非常に反応よかった。

会長：販売商品の主力はどうなっているか。

D委員：売上金額で言うと4割が化粧品。2割がお菓子・食品で、衣料品が15%位。あとは家庭雑貨になる。

会長：化粧品はどうしても袋ですか。

D委員：化粧品はビン入りで、割れてしまうと他のものが濡れてしまうので。

E委員： こちらでは、11月10日から山梨県河口湖店で有料化をスタートさせた。周辺の競合各社が先行し、弊社グループの2店と私どもの河口湖店、3店が最後に有料化した。実施した理由は、行政からの依頼と市民団体からの依頼である。結果、有料化前、売り上げは他のスーパーから私どもに流れて予算数値100を2、3ヶ月達成したが、有料化後、今まで競合で流れてきていたお客がまた元に戻ってしまった。やはり1枚5円の経費であっても、お客さんは5円出すよりはポイントをもらうのほうがいいということだ。日野市では、会社の方針は決まっております、かなり市民団体の協力を得られるエリアであり、行政の依頼もあって、1社を除いて9社ほどで7月スタートを目途に一斉有料化を図っていく予定となった。他では、今のところ決定したところはない。弊社グループの会社の方針としては、行政からの依頼があり市民団体からの協力をいただけるところでは、競合各社と足並みを揃えて一緒に取り組むことを考えている。マルエツの実験でも同じ状況があり、実験をやったため売り上げが12月落ち込んでその後1月2月になっても回復しないということで、行政のほうと反省会をしようという話をされていた。日野市で、1社が有料化に参加しなかったが、これは親会社の方針であり、それは仕方がない。当社では、全社あげてレジ袋の削減をお客さんをお願いしているが、やはり店の立地特性によって違ってくる。河口湖店の場合は、有料化をしても4割の方は袋を買っており、辞退率60%程度の達成である。それと、駅前立地では勤め帰りに寄って購入されるから、実際に袋を持ってこられるのは約5%だ。だから会社全体としての平均が17、18%で、駅前立地の低いところでは5%ぐらい。それから団地の中に店がある競合店のない場合は、同じようなオペレーションで、30数%の方は袋を持ってこられる。したがって、一番難しいのは、やはりコンビニや駅前立地のお店である。

副会長： 日野市で有料化しない店は、やっぱり2円引きはやっているのか。

E委員： 2円引きはやられている。

日野で今後有料化するスーパーの有料化価格は、まだ決まっていないが、現在実施している店は5円というところが多い。

A委員： 地域性により競合店のエリアがあるかと思うが。

E委員： 河口湖店周辺は車で動く。ここが今まで無料でレジ袋をくれたから、たまたまこっちで買い物しようかと移動できる。

A委員： 例えば境南町店の2つのスーパーは、直線で500mないのでエリア的に競合か。

E委員： 商品の品揃えが違うので競合しないのではないか。本当に基幹店舗で、儲けている場合、周辺の店で有料化していない地域では、最後の最後まで粘り通して有料化しないのが本音。

A委員： 一斉ならば理解するということがだが、駅前のお店と住宅街のお店を一斉にというのは難しいかもしれない。

会長： 現在、どこの大型店も前年割れを何ヶ月、何年続けている状況である。レジ袋だけの原因ではないということもある。

E委員： 有料化で下がったというのは特定できないと言われる担当の方もいらっしゃるが、弊社グループ川口店は近くに有料化していないところがあり、有料化した店だけが落ちているので、客が流れている。

会 長： 値引きは、ひとつのアイデアとして後ほど検討したい。レジ袋削減の手法として、2円引きが、有料化と同じ土台に乗せられないのか。

E委員： 乗せたらいいと思う。

会 長： 西友方式が有料化の1つの代替案にならないか、議論したい問題だ。有料化に替えるのではなく、西友方式がもし有料化と実質的に変わらないレジ袋削減効果があるということであれば、それも方式の一つではないのか。

E委員： そういう気はする。値引きやっている会社も社としては努力されている。

会 長： 値引きもあるし、1枚1円の有料化もある。その方式についてはまたここでアイデアを出し合い、検証できればと思う。

F委員： 値引き方式は補助金方式、助成金方式で、有料化とはカテゴリーが違うと思う。それは明確に分けたほうがいい。どちらがいいのか、あるいは組み合わせるか、議論になるだろう。大学側の人間として、学生側の人間として考えた場合、学生だからマイバッグ持たないというのは腑に落ちない。学生だろうと老人だろうと単身赴任の方だろうと、持たない人は持たない。やはり駅前立地で、コンビニ型という消費スタイルが効いているのではないか。一方、学生が率先してマイバックを持つかという、それもやれる人とやれない人がいる。やはり1人暮らしの人は、ゴミ袋として活用するのだと言う。それを例えば5円になっても買い、ゴミ袋として使うという学生もいる。その辺は調査する必要がある。あとは、矛盾するが、今の意識の高い学生にとっては、かなり当たり前に行える可能性がある。そういう学生をつかまえてまわしていくことで、さしあたりそれでもいいと思う。学生すべてを変える、市民をすべて変えるというよりは、まずはできるところからやりそれで徐々に上げると。時間が経てば当たり前になっていくというのはあると思う。

会 長： 現在、意識が急激に変わってきている。堤清二氏が、日経のコラムで「車社会に関する受け止め方がこんなに急激に変わったではないか。今まで、乗ること便利なこと早く移動することが、憧れというか離せないものだったのが、今は一挙に環境車にシフトしている」と。ゴミについても環境意識が大きく変わって来ているので、我々も受け身にならず、ポジティブにいきたい。その1つの鍵がレジ袋の有料化、ごみの有料化である。私の住む所沢も有料化していないが、有料化していない市町村だと、まさにゴミ袋として役に立っている、その取り組み方、若いものの世代や単身世代は意識が違うと感じる。もう1つ、レジ袋の有料化の例に関していうと、値引き方式も検討したいのは、有料化は強制で、消費者に対して5円取るよ、嫌ならマイバッグを持ってきてという形で強制的な手法。それに対し2円引きや1円引きは、強制ではない。強制でなくてある面で自由度が高い。レジで決済される意味では、

強制的な意識が薄まる方式でもある。武蔵野市でどんなことから考えていかなければならないか、変化を先取りする形で武蔵野市のあり方を出せると良い。当たり前の有料化に落ち着いてしまうのはつまらないと、私自身の気持ちでもある。

事務局：今日、欠席の委員二人からの意見を紹介する。

事務局（G委員の代理）：杉並区でレジ袋有料化を21年3月1日から2つの店舗ではじめる。1枚3円で販売をし、かつ辞退した方には2円引きをするというあわせ技で行う。もともとスタンプ方式で、20個のスタンプで100円引きであった(5円引きに相当)。ご協力いただいた方にサービスということで、今まで5円引いていたものを全くなくすのではなく、レジ袋を断った人は2円引き、必要な人には3円で販売する。もう1つ、日野市では、7月から市内全域で有料化開始ということである、1社を除いて。問題点として挙げられているのは、やはり経済情勢が厳しい中で有料化により業績に影響が及ぶかが懸念される。それから、せっかく有料化実施した店舗には、環境対策実施店として、褒めるしくみが必要ではないか。有料化に関して、実験は本格実施と同様の準備が必要である、実験だけでは終われない。そして市内全域、スーパーであるなら全部のスーパーが実施しないと、個別に有料化の実験を行うというのはなかなか難しい。スーパーが先陣を切ることは仕方がないが、他のコンビニ、小売店にも広げていかなければいけないのではないか。レジ袋は、有料化で8割の辞退となる事が分かっている。その中で有料化だけなのかということで、他の方法を考えてもいいという話があった。G委員に「実際、実験をやるときに例えばマイナス2円だったら有料化よりはやりやすいか」と問い合わせたところ、「有料化よりはやりやすいだろう。」という話だった。ただし、そのカラクリ、マイナス2円でその収支をどうするのか等、内部的な調整があるとのことであった。

事務局（H委員の代理）：どうしてもレジ袋を削減したいと思っても、実際、資源ごみを入れる袋として使う。だから市民・消費者としては、必要だからもらってしまう。もし収集方法が、袋に入れないごみ出しの方法であれば、必然的に減るのではないかなというふうに感じている。

会長：今紹介の取り組み、これは杉並区では他のお店の情報はどうなのか。1枚3円販売、断れば2円マイナス。おもしろいと思う。

事務局：目標60%を2年間のうちに達成するというので、各社が計画書を出しているの、スーパーでも有料化に踏み切る店と、そうでない店があり不ぞろいということ。

A委員：話が違うのだが、市内に成蹊大学等3校と、それから周辺に武蔵野大学等もあるので、市長にも話したら、市内の学校、市周辺の学校にも協力願おうということであった。F委員どうか、実際そういう単純な発想は。

F委員：意識の高いグループは確実に育っているが、2局分化している。大学全般という捉え方をされると、内実と違うと思う。あまり関心のない学生をどう巻き込むかは思いつかない。ただ、実験計画そのものにスタッフとして学生を巻き込む、あるいは授業として活用する方法がある。社会と交わっていると、社会実験を担うというのは貴重な経験だ。あるいは、大学各

グループでコンペをするとか。

B委員 : テレビで見たが、銀座のおにぎり屋がショーケースでおにぎりを販売し、OL などお昼時に買いに来る人たちが、自分のお弁当の容器に入ると普通の値段より少し安く販売する「エコ価格」というのがあるとのこと。それは学生さんには浸透しやすいのかなと思った。学生は本当に1円でも10円でも安いと飛びつく。

会 長 : なるほど。市場原理を利用しない手はない。

B委員 : 何故それをしなければいけないのかという意識を、まず育てることが大事だ。袋というのは、自分のところまで運ぶまでの役目なのだからその先がいらなと思えば。毎日使う自分のタッパーでも持っていれば便利だと思う。自分にメリットがあると協力してくれるのではないか。

A委員 : 意識の変化を強く後押しするような施策というか、この委員会でビジョンを出したい。昔、例えば新宿から甲府まで行く列車は、もう甲府に着くころごみだらけだったが今はきれいだ。この委員会では、ぱっと網かけて有料化というのではなく、強く後押しをするような提案をしたい。

○実験計画について

資料説明

- ・資料-2 表① レジ袋削減手法の整理
表② 武蔵野市内スーパーのレジ袋削減に関する取り組み状況（店舗ごと）
- ・資料-3 実験計画案 目標 60%、武蔵野市の特徴を生かした実験
- ・資料-4 事業者一覧説明

(質 疑)

会 長 : 今、実験計画について、手法の整理それから実験計画案、事業者一覧等についての説明あったが何か質問等、どうぞ。

F委員 : まず、この実験に費やせる予算はいくらか。次に、地域特性の中に「吉祥寺」とは、わからなかったなので説明を願う。

事務局 : 予算は具体的にどのようなイメージの予算ということか。キャンペーンか。

F委員 : 例えば、エコバッグを作り、大学生に配布し吉祥寺の中で使わせてどうなるかという実験、そういうことを考える余地があるのか。例えば有料化であれば、これは使う側が費用負担するので、ある意味予算がいらぬ。値引きの場合は、スーパーが負担されると思うが。

副会長 : 今、若者が持って魅力的だなというバッグを作ってみてはどうかというような話になった場合、その辺の予算はあるのか。

事務局 : 21年度予算は3月議会で通った後でないと、はっきりしたところは言えないが、大量にマ

イバッグを作るほどの予算は難しい。

会 長： お金のかからない実験、厳しい話になってきたが。

事務局： 案として、ご提案はいただきたい。やれるところからやっていきたいと思うのだが。予算的に非常にあるというわけではないが、内容によってはやはり必要であれば、なんとかできるかどうかは考えていきたいと思う。

事務局： 「吉祥寺」については、非常に大きい商圈であり、若者が集まる街、住みたい街と言われる。話題性があり、ここで大々的にキャンペーンを行えば、普段あまりレジ袋とか考えてない方でも耳にする、目にするようなこともあり、宣伝効果が大きい。地域特性の中に「吉祥寺」と入れているのは、吉祥寺全体で、吉祥寺という街を挙げてやるというような意味。

B委員： 吉祥寺というブランドのせいで家賃がとても高い、駐車場料金も高い。市がレジ袋有料化したときに各事業者に微々たる家賃補助をすると、事業者側としてはありがたいのではないかと。しかし、何百万円出して何万円では1%にも満たないが。でも本当に吉祥寺は、ブランドの一方で買い物をする人はうれしいが、事業者は苦しんでいると思う。親会社に助けてもらう事業者はやっていけるが、さらにレジ袋有料化でお客さん離れするのではないかと不安も一方ではぬぐいきれない。例えばコンビニで、シールを1回1個ずつで10個たまったら何かプレゼント、ティッシュ1個でももらえるとかの特典があると、楽しいかなと思う。また、コンビニの袋のサイズも6種類ある。それも一律で換算してしまっているのか。缶コーヒー1本買って、「袋いらぬ」と言われたらそれも一円引くのかと、いろいろと悩む。だから、スーパーとコンビニは全く違う。売っているものも違えば、使われ方も違うので、実験も二通りあるといいと思う。

会 長： もうひとつ、「ドラッグストア」「100円均一」も、プラ袋、レジ袋を多く使っているが、実験できるかどうか。スーパーが一番先行している事例なので、ここでさらに確認すべき実験的などところと、もうひとつ業態を変えたところで見るというのも大事だ。

B委員： 客単価がかなり違う。やはりコンビニ、小さな商店、スーパーと。

会 長： 頻度が高くて単価が小さい。今、たたき台として事務局から出ているが、実験可能性などご意見いただきたい。

E委員： 河口湖店でも有料化しているが、実際には100%ではない。米袋は、差し上げる、「刺身のセットを買った」「ギフト的な素材のセット物」には別途袋を準備して差し上げる。家まできちんと包装したものをお持ち帰りいただくというのが、一番のポイントになる。そういう区分けしながら有料化も進めている。ただポリ袋が1種類しか揃えてないために、お客がレジ袋に入りきる分だけ商品を買うことになると単価ダウン、売り上げダウンになる。客数もダウンしているから単価と客数が減った分、売り上げが落ちているのが実態だ。コンビニでさえ6種類の袋だ。スーパーはむりやり1種類の袋にしてしまったために問題も出ている。約20年前のコンビニエンスストアは、おそらく客単価800円ぐらいあった

と思う。コンビニの宣伝で600円買ったならポイントサービスというのは、おそらく600円の単価を割ったからではないか。私どもの店は、1000円前後の客単価の店もあれば、1500円の客単価の店もある。大型スーパーでは、ほとんどが2000円以上の客単価だと思う。それに対してコンビニが1枚5円の袋を負担するのは大変で、一律にはできない部分がある。それとドラッグストア等は、かさばるものが多い商材であり難しいのでは。だから一番やりやすいのは、スーパーマーケットかもしれない。

副会長： 杉並のスーパーでお米を袋に入れるのではなくて、取手をつけて持ちやすいような工夫をしている。やりながらいろいろ出てくる。

会長： 実験案として、①のレジ有料方式、値段を変える、レジで値引き方式、それから、レジごとに工夫を入れることができればという実験。ノーレジ袋のレジレーンとか、そういうものを考えられないか。あるいはプレゼント、その他のアイデアはないか。

D委員： 有料化にあたって、マイバッグプレゼントを3年間ほど実施したが、その袋を持って買いに来てくれる人を見たことがない。そのマイバッグをもらった人がレジ袋をもらってその中にマイバッグを入れて帰っていく。前、大学とコンビニでマイバッグを配布して返ってこなかったという事例紹介もあった。何がいけないかというと、やっぱりタダであげてしまうからだと思う。金出して買えば、そういうことはない。デポジットでもいいと思う。武蔵野市で100円のマイバッグを買って、要らなくなったらどこか他の店で100円返してくれるような方法でもいいのではないか。とにかく袋を持たせると意識をどこかで持つようにすべきだ。来期は難しくてもその次くらいにはなんとか。

会長： マイバッグのデポジット方式。リユースと同じ。

D委員： 洗ったりするとか、そういう返ってきた袋をどうするかという問題は残ってくる。市として立ち上げれば結構話題にもなっているのではないかな。

会長： 本当に頻度の高いコンビニでは、そういうデポジット方式は意味があるような気がする。

副会長： デポジットはやっていない。

B委員： やはり、一昨年に学生が考案し始めた「エコふくろう」というリユースバッグも「公共のもの」という意識は低かった。

F委員： 「公共のもの」という意識付けに、限界がある。利用者にとっては、逆になぜ「公共のもの」と思わなければいけないのか。前回は申し上げたが、やはり面倒で捨ててしまうのは仕方ない。それを前提に制度設計した方が現実的だ。デポジットと言われたのは、自分がお金を出してその担保があるから、大切に使うのではないかということだ。そこで原則に戻り、強制でやるのか、補助金でアメとムチでやるのかということになってくると思う。また、なぜレジ袋を使うのかというと、やっぱり楽だから。その意識を変えるというのは、難しいと思う。

会長： デポジットから、発展させられないか。

B委員： レジ袋1枚を3回使ってもらえると、ありがたい。「3回使おうキャンペーン」。要するに3回使うということは、2回目と3回目に新しいレジ袋を出さなくていい。例えば1日1000枚レジ袋を使っている場合は、3分の2が削減できる。だから繰り返し使ってもらえるというのはありがたい。それで付加価値をつけティッシュでも差し上げるというのがあるかどうか。お金の授受、デポジットというのは難しい。店主が1人でやっているところならまだしも、大勢でまわすところというのは、例えばポケットに入れてしまってもわからない部分もあったりする。

C委員：繰り返し使うというのは、前もらったレジ袋や持っているマイレジ袋をまた持ってきてこれに入れることか。

B委員：そうだ。結構そういうお客さん、うちの店でも2、3割はいらっしゃる。

副会長：買い物に来たお客さんが「袋もってない」と言うので、「今日もらった袋は帰ったらすぐ荷物を出したらポケットに入れてね」というのは、よく言っている。

B委員：お年寄りはかなり、協力してくれる。

C委員：その場合も値引きの対象になるということ。

E委員：今はまだ値引きの対象ではない。

副会長：何もない。何の特典ももちろんない。

E委員：ただスーパーの場合は、お買い物の金額に応じてポイントがつく。それとは別個に袋をご辞退したら、2円がつく。それがあから女房から買い物を頼まれた時、手ぶらで行こうとしたら「この袋持って行ってね」と、「このカード出したら、2ポイント付くよ」と。その「うまみ」が大切。「うまみ」があるから、袋を何回か使っていくと事になる。それからスーパー側から言わせると、自分のところで提供した袋については、家まで持って帰るまでの間に袋が裂けたときは、中身の商品の保障をせざるを得ない。でもお客さんが持ってきた袋のときには、お客さんが持ってこられた袋だから、その場合は原則保障していない。「繰り返し使ってね」と言うのは難しい部分ある。

F委員：この実験で例えばレジ袋の有料化5円で、駅近と住宅街のスーパーというのは、両方同時にやってみて、どう結果が違うかということを知りたいということか。

会 長：あとは、辞退率を知りたい。

F委員：今回の実験は、吉祥寺の特性を踏まえた上で、どのような制度設計をすべきか、という理想を考えるために基礎データがほしいということか。

事務局：1つの例として、吉祥寺でキャンペーンとして行う方法もあるし、スーパーだけ行うということになれば、駅の近くのスーパーと住宅街のスーパーとどう違うのか比較するという考え。この実験計画案の2つ目のところにあるように、レジ袋削減手法を対象となる店舗種類、立地特性とかけて複数のケースが立案できる。より良い武蔵野市のレジ袋削減のあり方を考えるための実験として例えば、スーパーだけでやるのがいいのか、コンビニもド

ドラッグストアも含めた形でやるのがいいのか、業態を限らず吉祥寺を挙げて百貨店からスーパー、雑貨店等、大々的に大きなお店から小さなお店までできるのがいいのか。

会 長： もう1つは、一番ポピュラーになっている有料方式、これをやるかどうかということだけであれば、ある面簡単だけれどもそれ以外の方法はないのか。その辺のところの実験の可能性も探してみたい。

副会長： 有料方式で、5円、3円、1円とあるが、5円が一般的。それから3円もあれば、1円もある。1円の有料化店に昨年データを問い合わせしたが、レジを変えてしまったので分からないが、その前までは70数%まで効果が出ている。有料化をはじめる時に、1ヶ月間ほど環境のためにとということで「うちで使っているレジ袋は、生分解性の袋なのです。一般の袋よりも少し高いので、その一部を負担してほしい」と宣伝し、1円がそれなりの効果が出ている。私たちはそうしたことで、この1円有料化方式でもいいのではないかとことは言うてきている。ここで言うとたぶん5円だったらどうなのか、1円だったらどうなのか、本当にそれだけの効果が出るのだろうかという議論と、実際にやってみたら、全然1円では効果ない、どういう結果が出るのかというようなことが、言われてもいいのではないかと思う。ドラッグストアとか小さな袋を使うお店はどうなのか。私どもは、それぞれのお店も含め「武蔵野市全体で辞退率がどうなるか」という点に注目したい。当然スーパーと小さなお店の利用、八百屋は大きな袋を使わざるを得ないという事情もある。100円ショップは、小さな袋で間に合うというようなところも値段としてはどんなふうにつけるのかというのは議論があるのではないかと。値引き方式については、今はすでに実施している店舗がある。さきほどの話だと京王ストアで両方を合わせ、持ってこなかったら3円取られ、持ってきたら2円引く、合わせて5円というか、そういうやり方もなるほどあるのかなと。そんなところも含めて考えていけたら。

会 長： さきほどの大学生をターゲットに、意識変革なりを訴えるとなると実験のあり方が難しいところがある。

副会長： どういうふうに巻き込んでいくのかという。

会 長： レジでの実験というよりは。

D委員： 今、大学でやっている有料化事例は、大学の中だと競合がないということが非常に大きい。学生の意識付けよりも実験しやすいという、それが一番の理由だろう。

会 長： 大学生全般にレジとか関係なく、レジ袋削減的なキャンペーンをと思ったりもする。実際にクローズドの中では、実験対象にはなるかと思う。

副会長： 生協で行っている大学がある。

B委員： 私が今、独自で考えたのが、うちの店はレジが3台あるので、ノーレジ袋レーンを1台やってみようかと。5の付く日がマイバッグの日だから、次の会議の3月19日までに、5の付く日は、2月25日と3月5日、3月15日と3回ある。昼時だけでも結構学生が並ぶの

で、みんな1つか2つずつ持って、500mlの紙パック1個とか、おしゃべりしながら楽しんで並んでいるから。「袋を入らない方はこちらで早く済みますよ」というレジ実験を独自に行おうと思う。次来たときに結果を報告する。

会 長： ペットボトルだけだと、シールで済む。

B委員： そうだ。だから、このレジで済ます人は袋つけませんよと書いて、実験してみようかと。

会 長： 濱中さんのところは何人でおられるのか。3台のレジを皆動かすのか。

B委員： 時期によって違う。今は学生さんが春休みだからほとんどいないので、2台しか稼動していない。しかし4月に学生が多くなり、3台稼動する。うちのお店は、大学と連動している。お店が始まって10年なのだが、当初、あそこは学生で混むから一般のお客さんに敬遠されていた。でも、今は競合店がたくさんできて、お隣も弁当屋があり、学校の中にもコンビニがあるから、3つ目のレジを稼動する機会が少なくなった。

副会長： 何か特典がつくといいが。

B委員： ティッシュをもらえるとありがたい。実験レジだけ、ティッシュをカゴに置いておいて、このレジで済ます人はティッシュ取ってもいいよと。いちいち配るといのはなかなかできないうが。

会 長： 早いのが1つ特典ですし、並ぶよりも。店内のPOPは。

B委員： もらってある、のぼりとポスター（市の）。

会 長： それでは、今日いろいろ難しい課題も出てきたので、こちらのほうでまた整理する。次回3月19日、ここの辺りで、スケジュール的にはこの実験計画案を具体的に決めたい。

事務局： 実験計画について、今回お示しした計画案をもとにいろんなご議論いただきたい。できるかどうかという実現性も含めて、考えていかないといけない。一番はじめに皆様にお示した計画の中で、6月から7月の頭にかけて実証実験を行ってまいりたいというお話をしたが、次回会議でどの内容で行っていくか決定したい。相手があってできる内容であり、タイトなスケジュールの中で今度はお話を事業者の方にも進めていかなければならない。

会 長： 有料化ひとつを強く押し出していこうということでもない。実験計画をいくつかあげて、そのヒントになればという少し漠然としたところがあり、考えづらいと思うが、逆にいろいろアイデアを出していただければ、大変ありがたい。

○今後の日程

今後の会議日程 3月19日（木） 午後2時から クリーンセンター見学者ホール

閉 会

以上